

なん ぼく し てき

南 北 市 入 糶 2022

原の辻遺跡 令和3年度調査成果

原の辻遺跡の丘陵部の北端から北におおよそ300m離れた山すそには、弥生時代の墓域が沿うようにして列状に並んでいることが知られています。令和3年度には、この列墓の北側、比高差10mを上った場所にある丘陵部において発掘調査を行い、墓域周辺の状況を確認しました。

ここはもともと饅頭畑でしたが、水田にするために重機によって平らにされ、現在では住宅と、上下2段の耕作地となっています。発掘調査をする前には、弥生時代、平安・鎌倉時代頃の土器や黒曜石の破片が多く採集され、これらの時代の歴史が解明されることが期待されました。発掘調査の結果、次の2つのことが分かりました。



1

列墓の時期よりやや新しい時代（弥生時代中期後半）の遺物を含む土の堆積や、壺の埋納遺構（弥生時代後期初頭か）が確認されたことから、墓域よりやや新しい時代に利用された場所であるらしいこと。

2

平安時代末から鎌倉時代頃の遺物を多く含む層が見られ、また土器をまとめて埋めたような特殊な遺構が見られることから、この時代に盛んに利用された場所であるらしいこと。

さらに詳しく歴史を解明するために、令和4年度にもこの調査地点で調査を行う予定です！

東アジア国際シンポジウム

『光り輝く青銅器を求めて』 -原の辻遺跡出土青銅器から見た東アジア交流-

令和3年10月16日（土）、長崎歴史文化博物館において東アジア国際シンポジウムを開催しました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策のため会場の人数に制限を設けての開催となりましたが、友好機関協定を締結している韓国・釜山博物館の青銅器研究者に、オンラインを活用して講演とパネルディスカッションへ参加していただくことができました。

シンポジウムでは、中国・韓半島で生産された銅銭や青銅鏡、さらには韓半島の慶北地域に限定的に見つかる馬形青銅製品という特殊な青銅器を調べることからわかる弥生時代の交流のあり方についての発表がありました。これにより「交易の結節点」としての原の辻遺跡の重要性があらためて強調されました。

パネルディスカッションでは、それぞれの発表を踏まえて「弥生時代の人々はどのような必要性から海を渡り、青銅器を求めたのか？」をテーマに討論を行いました。その中で、原の辻遺跡に住む人々にとっての青銅器の必要性について、登壇者から多くの意見が出され、さらなる調査研究の展望や期待、重要性が再確認されるものとなりました。



県内発掘調査概要

- 本調査 -

はいきせと
早岐瀬戸遺跡



搾り機

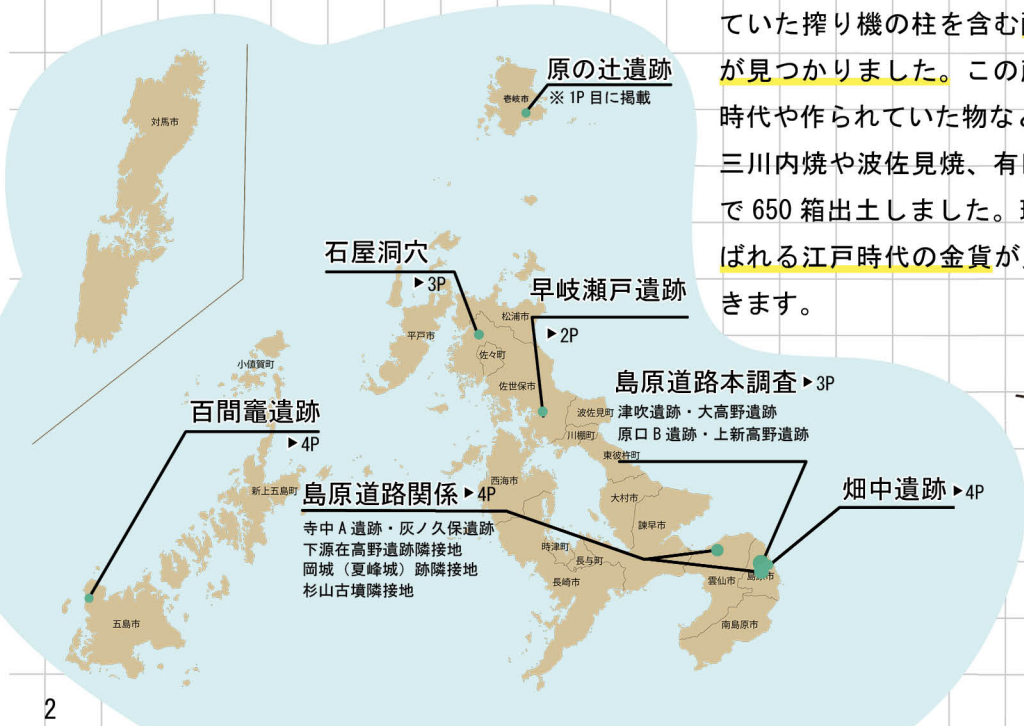
醸造関係の大型建物



搾り機の柱

河川改修工事に伴い令和元年度から調査を続けている早岐瀬戸遺跡は、佐世保市南部の大村湾と佐世保湾を結ぶ早岐瀬戸に面する遺跡です。ここは古くから水陸の交通が集まる所で人や物の往来で賑わった場所です。現在も春には「早岐茶市」が開かれ海産物や農産物、陶磁器などが周辺の地域から集まります。遺跡周辺は江戸時代の初めに海岸を埋め立てて造られた土地で平戸往還の宿場町、平戸・五島方面と大村湾をつなぐ港町として栄えました。

令和3年度の調査では江戸時代の建物跡や井戸跡、捨てられた大量の陶磁器などに加え、令和元年度の調査で確認されていた搾り機の柱を含む醸造関係の蔵と思われる大型建物跡が見つかりました。この蔵や搾り機については営まれていた時代や作られていた物など詳しい内容を調べています。また、三川内焼や波佐見焼、有田焼などの焼き物が今年度はコンテナで650箱出土しました。珍しいものとしては元文一分判と呼ばれる江戸時代の金貨が見つかりました。調査は今年度も続きます。



原の辻遺跡
※ 1P目に掲載

石屋洞穴 ▶3P

早岐瀬戸遺跡 ▶2P

島原道路本調査 ▶3P

百間竈遺跡 ▶4P

島原道路関係 ▶4P

畑中遺跡 ▶4P

寺中A遺跡・灰ノ久保遺跡
下源在高野遺跡隣接地
岡城(夏峰城)跡隣接地
杉山古墳隣接地

出土遺物 元文一分判
江戸時代の金貨



大高野遺跡出土 ミニチュア土器 (小型の深鉢)



島原市 津吹町
原口町, 有明町

島原道路本調査

島原道路建設に伴い、令和3年度に調査を行った津吹遺跡、大高野遺跡、原口B遺跡、上新高野遺跡は、雲仙岳から東向きに広がる火山性扇状地の上に位置します。

調査では、黒色火山灰土層から弥生時代の土器が出土したほか、その下の黄褐色火山灰土層の上面から縄文時代晩期の条痕文土器や黒色磨研土器が、その下の黒色火山灰土層の上面から縄文時代早期の押型文土器、更にその下の硬質ローム層から安山岩や黒曜石製の剥片が出土しました。



島原道路建設工事と原口B遺跡発掘調査の遠景



大高野遺跡 空中写真



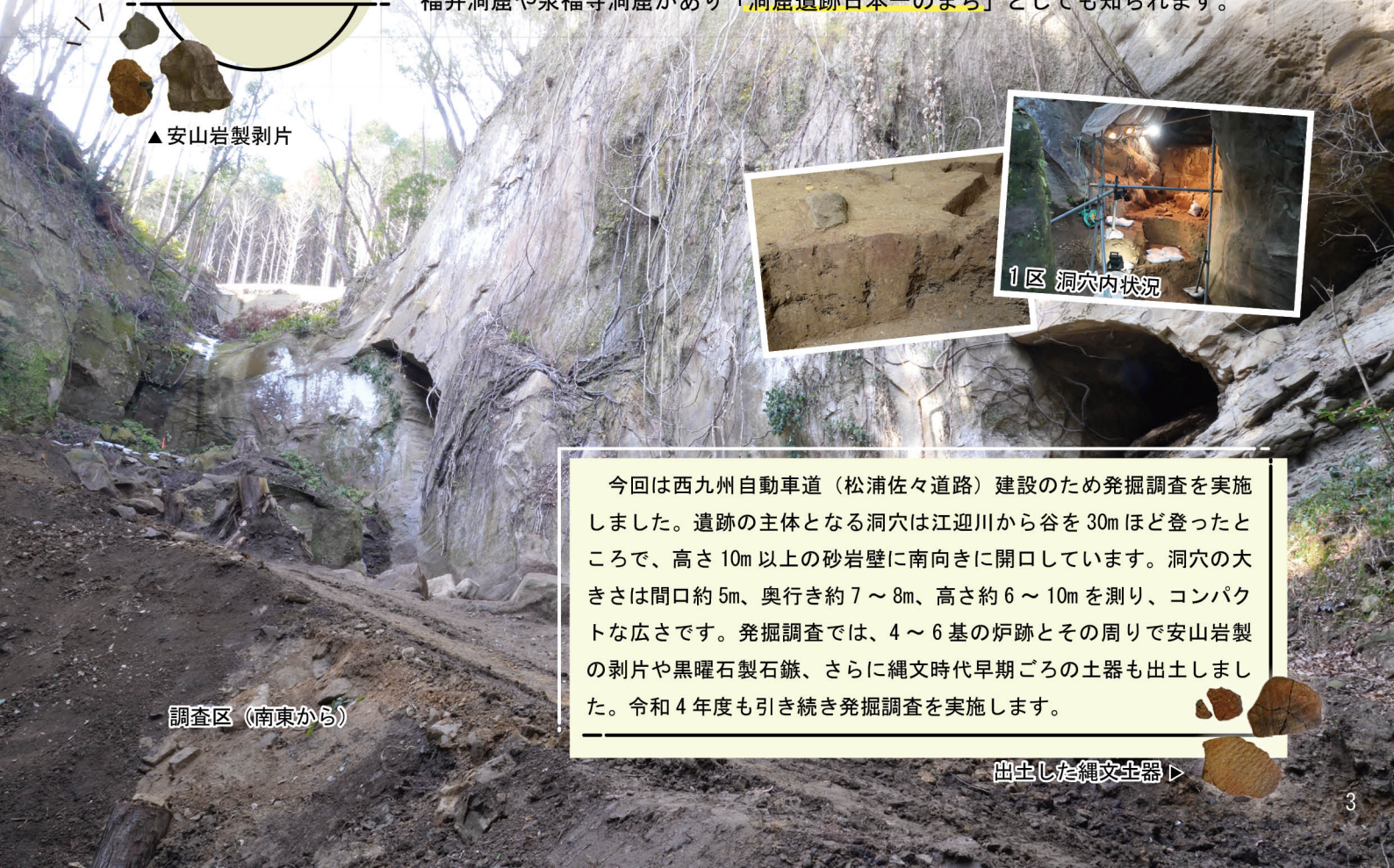
上新高野遺跡出土 黒曜石製剥片

佐世保市 江迎町

いわやどうけつ 石屋洞穴

▲安山岩製剥片

石屋洞穴は、国指定名勝・平戸領地方八奇勝の一つ「高巖」の南に位置し、この地域に広がる砂岩層に形成された洞穴遺跡です。佐世保市近辺ではこうした砂岩層に形成された洞穴遺跡が30か所以上集中しており、佐世保市内には国指定史跡福井洞窟や泉福寺洞窟があり「洞窟遺跡日本一のまち」としても知られます。



1区 洞穴内状況

調査区 (南東から)

今回は西九州自動車道(松浦佐々道路)建設のため発掘調査を実施しました。遺跡の主体となる洞穴は江迎川から谷を30mほど登ったところで、高さ10m以上の砂岩壁に南向きに開口しています。洞穴の大きさは間口約5m、奥行き約7~8m、高さ約6~10mを測り、コンパクトな広さです。発掘調査では、4~6基の炉跡とその周りで安山岩製の剥片や黒曜石製石鏃、さらに縄文時代早期ごろの土器も出土しました。令和4年度も引き続き発掘調査を実施します。

出土した縄文土器 ▶

五島市 三井楽町

ひゃっけんかまど 百間竈遺跡

百間竈遺跡は五島市三井楽町にある縄文時代と弥生時代の遺跡です。調査地やその周辺には「円畑」と呼ばれる牛馬耕の名残で円形を呈している畑が残っています。今回は五島市教育委員会が実施した開発行為に伴う事前の範囲確認調査の支援を行いました。

今回の調査では黒曜石の剥片や縄文土器などの遺物が現代の陶磁器と一緒に出土しました。どうやら「円畑」を作る際に古い時代の土層は削られてしまっていたようです。



出土遺物



試掘坑西壁

島原市・雲仙市

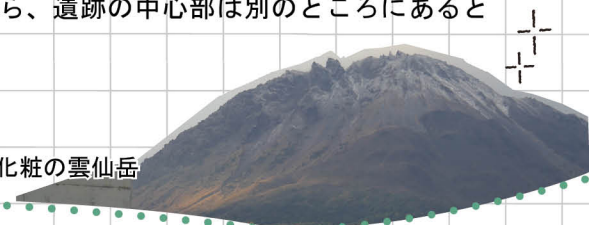
島原道路関係

島原半島と諫早市中心部をつなぐ高規格道路・島原道路の建設に伴い、平成30年度から試掘・範囲確認調査を実施しています。令和3年度は島原市の寺中A遺跡、灰ノ久保遺跡、下源在高野遺跡隣接地と雲仙市の岡城（夏峰城）跡隣接地、杉山古墳隣接地で調査を行いました。

調査では黒曜石の剥片や縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器などが出土しました。一方で、建物跡や溝跡などの遺構は見つからなかったことから、遺跡の中心部は別のところにあると思われます。



寺中A遺跡から見える雪化粧の雲仙岳



島原市 下宮町

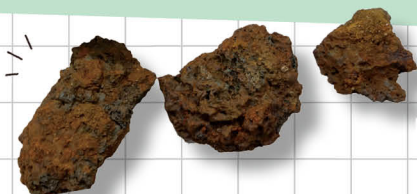
はたなか 畑中遺跡

島原半島北東部の海沿いに立地する広大な遺跡で、道路拡幅工事に先立ち範囲確認調査を行いました。30年ほど前の発掘調査では、縄文時代晩期の埋甕や中世の溝状遺構・掘立柱建物跡・精錬鍛冶遺構が検出され、多量の遺物が出土しています。

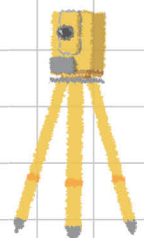
今回の調査では、地表から1.5～2mほどが近世から現代にかけての耕作土であることが分かりました。その下の褐色火山灰質土は、耕作により削平・改変を受けたとみられ、畑の土手のような地形になっていました。古い遺構や遺物包含層は確認できませんでしたが、耕作土に大量に混じっていた鉄滓は、中世の鍛冶遺構に関わるものと考えられます。



耕作土とその下の状況



出土した鉄滓



わくわく!! 水中文化遺産!

長崎県内には元寇船が発見された松浦市鷹島海底遺跡をはじめ、50か所以上の水中遺跡が知られています。県では、令和3年度から「水中文化遺産保存活用推進事業」を進め、水中考古学体験講座と県内水中遺跡の分布調査を実施しています。

水中考古学の聖地で学ぶ体験講座!

最新の水中考古学に触れ
「わくわく!!」する体験講座は
令和4年度も実施予定ですので、
ぜひご応募ください



新しく発見した水中遺跡

水中遺跡保護の担い手を育成するため「わくわく!!」水中考古学体験講座in「鷹島」(令和3年8月)を実施しました。この講座では、元寇船が発見された鷹島を舞台に、第一線で活躍する水中考古学の専門家の講義や体験を通して水中考古学の基礎から実践を学ぶことができます。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンラインでの実施となりましたが、考古学や保存科学を専攻する大学生、自治体で文化財保護にあたる職員など多くの方々にご参加をいただきました。

未知の遺跡発見!? 水中遺跡の分布調査!



水中調査の様子

大切な遺跡を保護(保存と活用)するためには、まずどこにどんな遺跡があるかを調べなければなりません。令和3年度は壱岐・対馬地域の調査を行い、1か所で新規の水中遺跡を発見しました。

調査は、文献や聞き取りによる予備調査からはじめ、調査対象地を選定します。次に、沿岸を歩きながら土器や石器などの遺物、港湾施設や石切り場の痕跡などを探します。さらに、水中まで遺跡が広がっていないか確認するために、シュノーケリングやスキューバダイビングでの調査を行います。

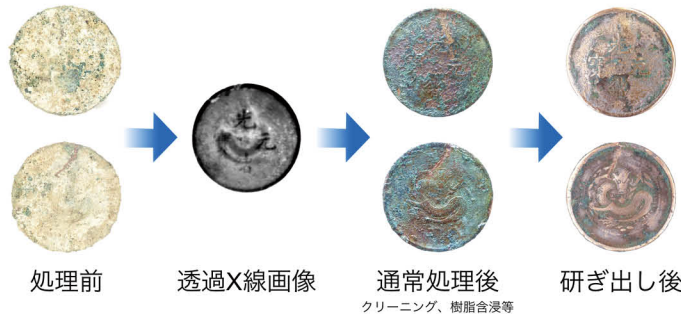
未知の遺跡が発見されるかもしれない期待で「わくわく!!」する調査ですが、令和4年度は五島地域で調査を実施しますので、ご期待ください!

精密分析・保存処理

当センターでは、出土遺物の精密分析や保存処理を行っています。

今回は、佐世保要塞砲兵連隊衛戍病院跡から出土した古銭の処理をご紹介します！

通常、サビで覆われた古銭は筆などを使ってサビや汚れを落とし、樹脂を浸み込ませる処理を施します。今回は、サビや摩滅の激しいもの、表裏両面に模様があるために透過X線画像で観察が難しいものについて、サンドペーパーを使った研ぎ出しを行いました。



研ぎ出し作業

本来の凹凸が失われてしまう危険性もありますが、慎重に作業することで文様をはっきりと浮かび上がらせることができました！

吉崎高校生徒の研究発表

埋蔵文化財センターは吉崎高校東アジア歴史・中国語コースに教育支援を行っています。平成29年度からはこうした支援の一環として、奈良大学が主催している全国高校生歴史フォーラムに研究論文を応募しています。応募開始以来、地元である吉崎の歴史を研究する論文が高く評価されてきました。

令和3年度は、令和元年度・令和2年度7月に吉崎高生が発掘調査を行った定光寺前遺跡で見つかった中世土師器を対象に、鎌倉時代から戦国時代にかけての吉崎の歴史を研究しました。この研究では、まず定光寺前遺跡の隣にある観城跡出土の資料を用いて、中世土師器の編年案を検討しました。それをもとに、定光寺前遺跡と観城跡における中世土師器の時期的増減を調べ、令和2年度に先輩が行った貿易陶磁器の研究成果と比べることで、中世吉崎の歴史の解明を進めました。緻密な分析が評価され、応募総数88編の中から上位5編にあたる「優秀賞」を受賞しました。



オープン収蔵展示紹介

令和3年度のオープン収蔵展示は、原の辻遺跡の調査史を中心に県内の弥生時代の遺跡を貴重な記録写真や出土品とともに紹介する『発掘ストーリーズ-原の辻遺跡を中心とした長崎の弥生遺跡アーカイブ-』展、長崎県独自の特色のある古墳とともに、センターで保存処理を行い初披露となる副葬品などを紹介する『長崎県の古墳-よみがえる副葬品-』展を開催しました。

現在は、飛鳥・奈良・平安時代の遺跡や出土品とともに、長崎県の「古代のみち」をたどる『大和の果て 古のみち-飛鳥・奈良・平安時代の長崎県-』展を開催中です。

開催中
第32回オープン収蔵展示
大和の果て 古のみち
-飛鳥・奈良・平安時代の長崎県-



2022年
3/4(金)～6/26(日)
一支国博物館1階
オープン収蔵展示室

